

活動名		自然遊び・散策			
概要	○自然観察コースや自然の家周辺のフィールドで遊んだり、歩いたりしながら自然界のしくみや動植物の特徴について学ぶ。				
ねらい	○森の中を自由に歩くことを通して自然界の不思議さに目を向けることができる。 ○動植物の観察の仕方を知る。 ○動植物の生態や特徴を理解する。				
関連教科等	国語・理科・生活・図画工作 体育・音楽・道徳・総合				
指導形態	①自主活動で実施、②職員は活動の説明のみ行う、③職員が指導を行う				
時期	通年	時間帯	日中	対象	幼児～
場所	施設周辺	人数	～40人程度	所要時間	0.5～3時間
準備物	施設で準備できるもの			団体・個人で準備するもの	
	双眼鏡、ルーペ、フィールドスコープ 植物ハンド図鑑等			動きやすい服装	
進め方・展開例					
内容			留意点		
活動前	○打ち合わせを行う。 ・実施の判断 ・ねらいの確認 ・流れの確認と物品の受け渡し（準備物参照）			○雨天時は相談の上、実施判断をする。 ○活動の進め方を確認する。	
活動の説明	○職員（または団体代表者）からの説明を聞く。			○コース（フィールド）と活動内容を確認する。 ○危険な動植物について注意を促す。 （ウルシ、ハゼ、マダニ、マムシ、スズメバチ等）	
展開	○目的に応じてコース（フィールド）を歩く。 ※活動の内容を明確にし、出発させる。 ○動物の足跡を調べる。 ○鳥の観察や鳴き声を聞く。 ○植物の観察をする。 ○植物を採取（スケッチ・写真撮影）する。 ○ネイチャーゲームで、五感を使った自然体験をする。			○コース（フィールド）の事前調査をしておく。※「自然観察道コース」「みんなの森コース」「冒険の森コース」「肝試しコース」「どんぐりの森コース」「どんぐりの谷コース」などを利用する。 ○イノシシ、タヌキ、ウサギなど。 ○鳥などをおどかさない。（大声など） ○色、形、臭い、味など。 ○スケッチ、写真での記録を原則とし、必要以上に採取しないようにする。 ○必要以上に植物や実を採取しない。	
まとめ	○調べたことや気づいたこと、発見したことなどを発表し合う。 ○自然と人との関わりについてもふれ、環境問題を考える契機とする。				
評価	○動植物の観察の仕方が理解できたか。 ○自然界の不思議さに目を向けることができたか。 ○動植物の生態や特徴を理解することができたか。				
発展	○自然の中でスケッチをしたり、感じたことを文章で表現したりしてもよい。 ○四季の変化と動植物の関係を観察するとよい。 ○自然の中をただ歩くだけでもよい。				